

令和3年度 訪問看護出向事業報告会

～訪問看護ステーションの立場から～



令和4年3月12日(土)

広島県看護協会訪問看護ステーション「ひびき」
所長 栗原 富江

広島県看護協会訪問看護ステーション「ひびき」の概要

所在地

広島市安佐北区可部南

開設

平成11年 5月

職員数

22人（看護師14人・理学療法士2人・作業療法士4人・事務2人）

利用者数

144名(令和3年9月実績)

訪問件数

951件(令和3年9月実績)

訪問看護指示書交付
医療機関数

53機関（令和3年9月現在）

訪問エリア

広島市安佐北区・安佐南区

機能強化型訪問看護ステーション2算定事業所



広島市



安佐北区

広島市の総面積の約40%

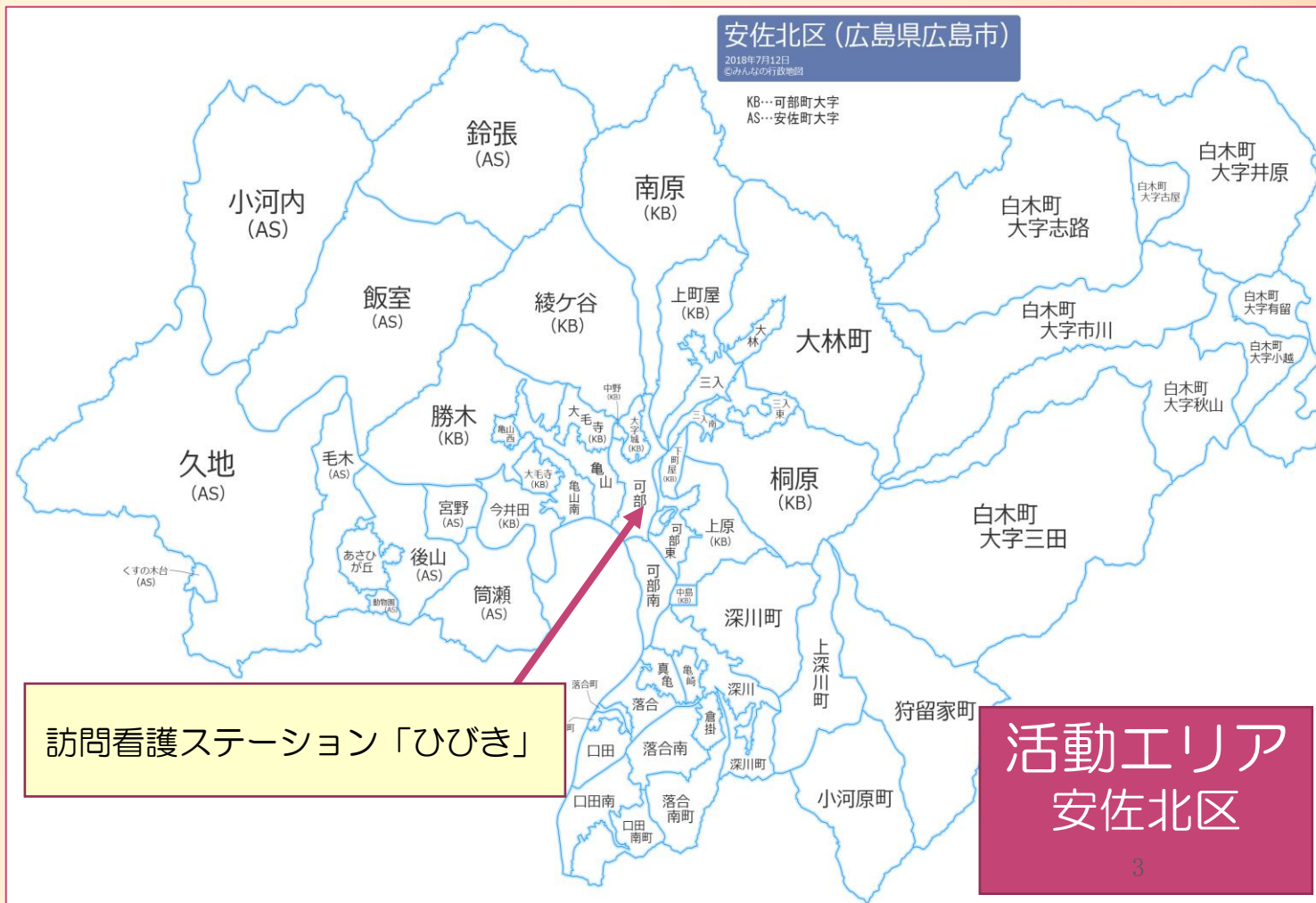
高齢化率 34.1% (令和3年度)

(広島市ホームページ
区別・高齢者人口の推移令和3年3月31日現在引用)

安佐北区 (広島県広島市)

2018年7月12日
©みんなの行政地図

KB…可部町大字
AS…安佐町大字



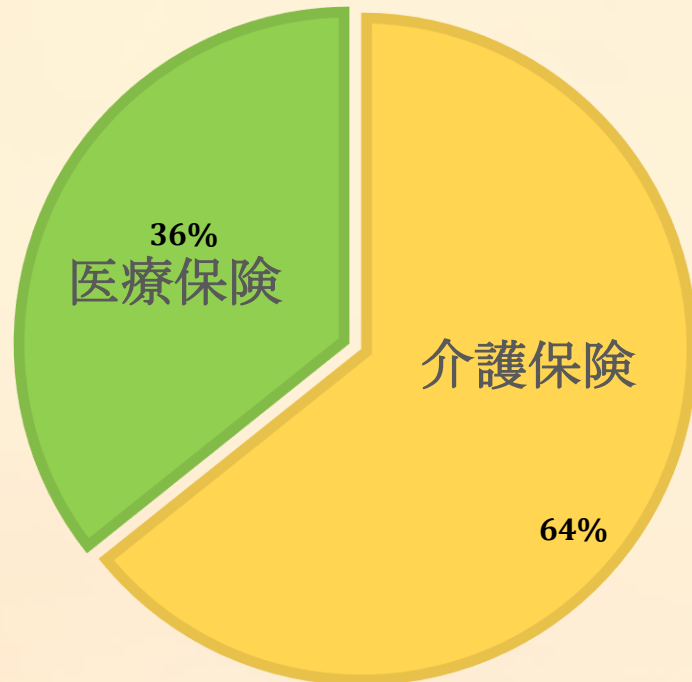
訪問看護ステーション「ひびき」

活動エリア
安佐北区

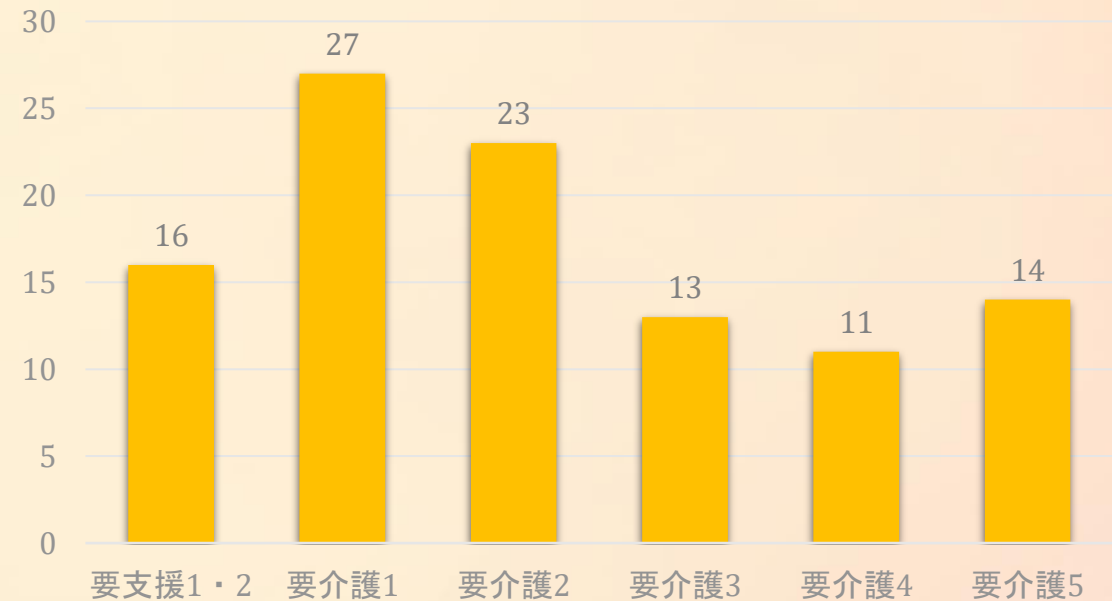
訪問看護ステーション「ひびき」業務実績 (令和3年9月実績)

【介護保険】

介護保険・医療保険の割合



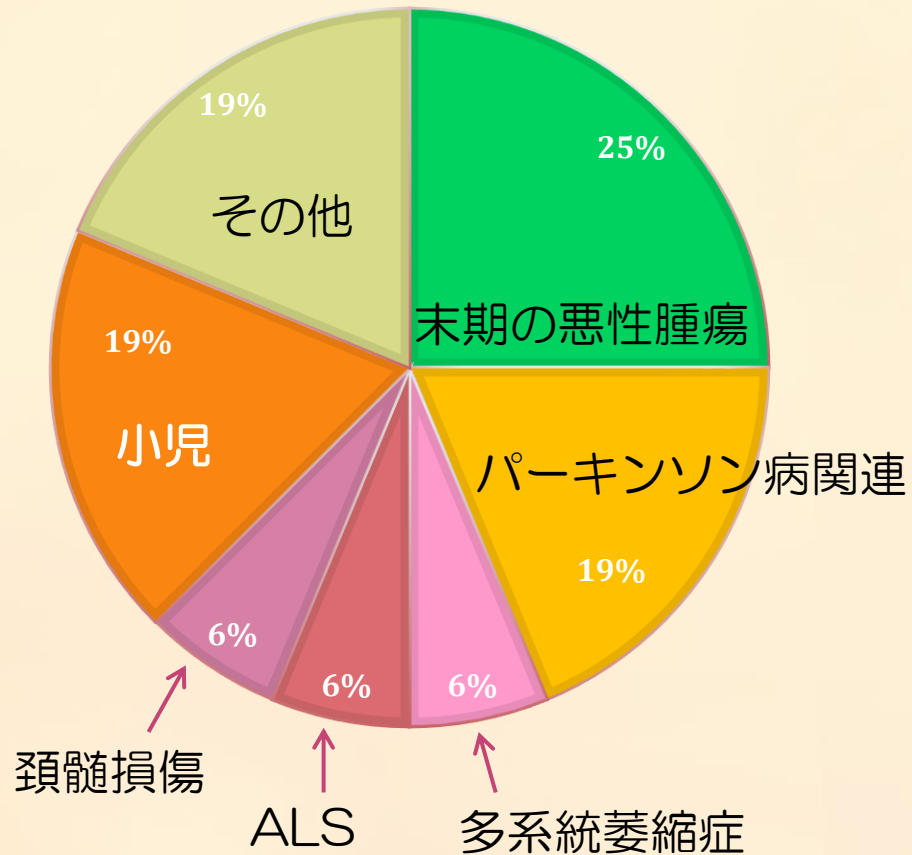
介護度別人数



【医療保険】



疾患別の割合



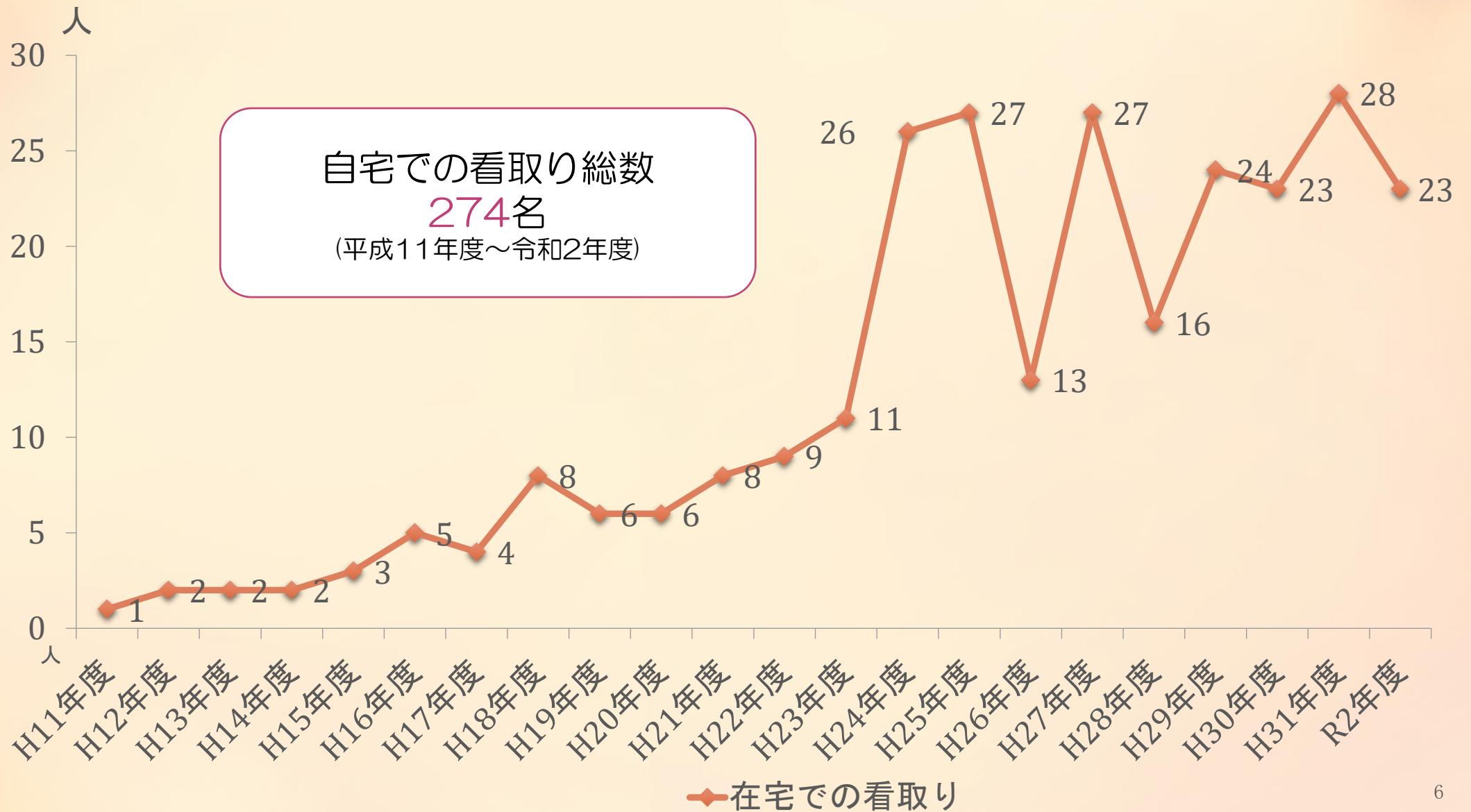
医療的ケア児・・・9名

人工呼吸器使用・・・3名

【疾患】

- ・18トリソミー
- ・ファロー四徴症
- ・エマヌエル症候群 など

「ひびき」における在宅看取り数の推移



訪問看護出向事業目的

病院の看護師が一定期間、病院に在職したまま地域の訪問看護ステーションに出向し、訪問看護に従事しながら在宅療養支援能力の向上をはかることにより、院内の看護ケアや退院支援機能の強化に役立つスキルを取得し、地域連携の強化に繋げる。

ステーションの目的

訪問看護の理解の促進・魅力の発信
出向元の病院との連携強化
地域の特性に沿った地域包括ケアシステムの理解

出向受入れ期間 令和3年10月1日～12月31日 (3ヶ月間)

出向元

地方独立行政法人広島市立病院機構

広島市立広島市民病院

出向者

山田 久美 さん

看護師歴

13年目

経歴

小児科病棟 8年

混合病棟（脳神経内科・外科、眼科、内科） 5年

出向の受入れ 事前準備

指導・教育体制

- 指導責任者: 所長
- 主担当者: 主任
副担当者: 常勤職員

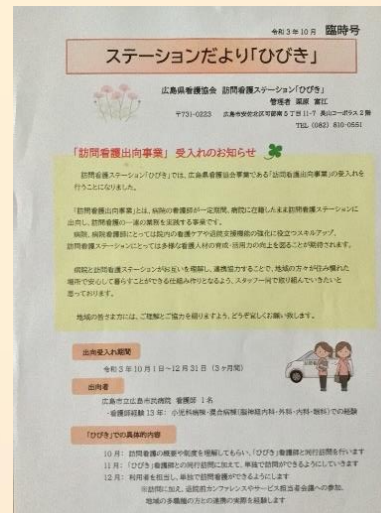
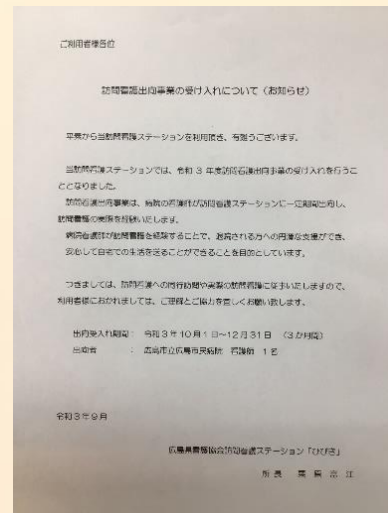


業務に関する書類の作成

- 受入れ計画を作成
- 業務マニュアルの確認
- 1日の業務内容等の作成
- 貸与物品リスト作成・準備
- 利用者や関係機関への通知文を作成

受入れ計画について 担当者と日程調整

- 利用者へ通知文を配布する時期を検討
- 関係機関への挨拶先を検討
- 職員に出向事業について説明する日程を検討
- 利用者の選定について検討



出向事業の流れ・利用者の選定について



令和3年度 出向事業 利用者概要

10月前半:介護保険利用者 (状態が安定している利用者)

利用者	性別	年齢	疾患名	要介護認定	ケア内容
①	F	69	2型糖尿病 高血圧 ASD	要介護2	足浴、爪切り、マッサージ 四重管理
②	F	77	脳出血後遺症	要介護2	失音症に対して、言語訓練 片麻痺があるため、歩行練習
③	M	73	2型糖尿病 軽度認知障害	要支援1	トルリケア(皮下注)の自己注射の見守り 緊急事態(薬をシリンダーへセット)
④	F	85	認知症 2型糖尿病	要介護1	ノートに記録された自覚症状の管理 薬セット、インシュリンの換算調整

10月後半:医療保険利用者 (状態が安定している利用者)

利用者	性別	年齢	疾患名	要介護認定	ケア内容
①	M	56	脳血管障害	要介護3	褥瘡のケア、膀胱リハビリ、歩行練習 吸入器(エアロネブ)の管理調整
②	M	71	左半身不遂	要介護1	褥瘡のケア、四重管理 シャワーの介助
③	M	82	腎臓病術後 四肢麻痺	要介護2	シャワーの介助 気管挿管 経腸栄養
④	M	72	脳血管障害	要介護1	褥瘡管理、鼻汁コントロール(下痢の調整) 膀胱リハビリ、歩行練習、褥瘡の看護調整

小児・難病など 同行訪問

利用者	性別	年齢	疾患名	要介護認定	ケア内容
①	F	2	エリスロ症候群	小児	看護のケア、ミキサー食の作り置き 保護の優先相談
②	M	17	先天性オリーブ	小児	気管挿管と胃瘻のケア 人工呼吸器(トリロジー)の回路交換 入浴介助、吸入、排便、経腸栄養の管理
③	F	71	ALS	要介護3	気管挿管と胃瘻のケア、部分換気 人工呼吸器(トリロジー)の回路交換
④	M	68	難病(脳症)	要介護3	気管挿管と胃瘻のケア、胃瘻から栄養剤の注入 褥瘡管理、膀胱留置カテーテルの管理 広島県看護協会 認知看護マージョン「ひびき」

(同行訪問する利用者)

- 10月前半は介護保険利用者
- 10月後半は医療保険利用者 (状態が安定している利用者)
- 11月から単独訪問を予定する利用者
- 小児や終末期など同行訪問 (見学)
- 振り返り用紙に記載し毎日振り返りを行う

(単独訪問する利用者)

- 新規利用者を受持ちにしていく
- 病院での経験を活かすことができる利用者
- 複数の看護師が訪問している利用者
- 多職種との連携が多い利用者
- 訪問後は日々の振り返りを行う

※訪問看護業務の習得状況評価表で毎月振り返りを行う

出向事業の実際 1ヶ月目



出向1ヶ月目

訪問看護業務の一連の流れを理解するための研修・同行訪問

- ① スタッフと共に利用者への訪問看護に同行
- ② タブレットによる看護記録
- ③ 医療機関への退院前カンファレンスへの参加
- ④ 医師との連携（訪問診療に同行、地域のクリニック訪問）
- ⑤ サービス担当者会議への参加
- ⑥ ケアマネージャーと同行（併設の居宅介護支援事業所での半日研修）



出向1ヶ月目：実施結果

	同行訪問	単独訪問
介護保険	30	1
医療保険	27	
合計 件数	57	1

退院前カンファレンス参加・・・2件

サービス担当者会議に参加・・・2件

単独訪問の利用者

- 80歳 女性
- 介護保険 要介護1
- 病名 非代償性肝硬変
- 週3回 点滴で訪問
- 複数の看護師が介入している

出向2ヶ月目

車の運転も緊張しながら
単独訪問を始めました!!



出向2ヶ月目

受持ち利用者の単独訪問を行う

- ① 単独訪問の開始（受持ち利用者は5名を目標）
- ② 同行訪問を継続（出向者が主体となって行う）
- ③ タブレットによる看護記録の活用を広げる
- ④ 訪問看護師の視点で退院前カンファレンスに参加
- ⑤ 医師やケアマネージャーとの連携
- ⑥ サービス担当者会議へ単独で参加

出向2ヶ月目：実施結果

訪問件数	
同行訪問	27
単独訪問	31
合計 件数	58

受持ち
利用者
6名

サービス担当者会議参加・・・4件（単独参加2件）

Webでの退院前カンファレンス参加・・・1件

施設見学（デイケア・小規模多機能・サ高住）

カンファレンスの場で事例の共有

受持ち利用者

【新規】

- ①73歳女性・ALS（医療）
- ②86歳女性・2型糖尿病（介護）

【既存】

- ③80歳女性・肝硬変（介護）
- ④88歳男性・廃用症候群（介護）
- ⑤58歳男性・パーキンソン病（医療）
- ⑥75歳男性・ALS（医療）

出向3ヶ月目



出向3ヶ月目

経験できていない終末期や小児の新規利用者の同行訪問

- ① 終末期や小児の新規利用者の同行訪問
- ② 単独訪問の継続（受持ちは10名を目標）
- ③ 看護計画書から報告書作成まで一連の記録を1人で実施
- ④ グリーフケアの同行訪問

出向3ヶ月目：実施結果

訪問件数

同行訪問	25
単独訪問	35
合計 件数	60

受持ち利用者
10名

受持ち利用者

【新規】

- ⑦51歳男性・多系統萎縮症 (医療)
- ⑧66歳女性・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 (医療)

【既存】

- ⑨47歳女性・COVID-19後の声門下狭窄 (医療)
- ⑩88歳男性・膀胱がん術後人工膀胱 (介護)

- 終末期利用者の同行訪問・・・2件
- 小児の退院前カンファレンス・・・1件
- 看護サマリー記載・・・2件
- 受持ち利用者の弔問・・・1件

定期的な振り返り

- 1ヶ月目の同行訪問期間は、振り返り用紙に記載し毎日振り返りを行った。
- 月に1回、訪問看護業務の習得状況評価表で振り返りを行った。
- 単独訪問を行う時には、訪問後に報告を受けて振り返りを行った。



実践した内容を確認しながら、学びや不安に思っていることを知る機会となった。

担当者と共に次の計画に活かすことができた。

出向事業の成果

訪問看護の理解の促進・魅力の発信

- ・ 3ヶ月間で利用者0歳～98歳まで62名の訪問を行い在宅療養が可能な患者像が広がったのではないかとと思われる。
- ・ 訪問看護を理解することで、退院後の生活を見据えた指導に活かされ看護の継続性に繋がるとと思われる。

病院と訪問看護ステーションの連携強化

- ・ 出向者と訪問看護師がスタッフレベルで意見交換や情報共有をすることで、相互理解を深め今後の連携強化に繋がるとと思われる。

訪問看護を実践できる看護人材の育成・活用

- ・ 職員が増えることで、他の職員の時間外業務が減り休暇取得にも繋がった。
- ・ 病院の最新治療など情報を知る機会を得た。また、職員が自己の業務を振り返り学習するなど教育的な効果も得ることができた。

出向事業の課題

利用者の選定

- ・ 出向者の受持ちを確保するには、事業所全体の利用者数を増やす必要がある。
- ・ 病院経験を踏まえて利用者を選定したいと考えたが、病院経験に合わせた新規利用者が出向期間中に依頼があるかは先が見込めない。

緊急対応について

- ・ 出向者の居住地が遠いと時間外や休日の緊急対応が難しい。
- ・ 出向者に緊急対応についてどこまで依頼するか事前に取り決めが必要。

メンタルヘルスサポート

- ・ 病院と環境が異なり、在宅では1人で訪問し判断・対応するため精神的負担感を感じやすい。そのため十分なメンタルヘルスケアが必要。

ご清聴ありがとうございました

